

●ノイルピン（ベルリン近郊）コンサート ●ベルリン訪問



北ドイツは、未だあちこちに雪の残る風景です。

先週末3月18日、ベルリン近郊のノイルピン市、老人ホームでの礼拝コンサート、19日には、同市のバプティスト教会で賛美コンサートをさせていただきました。主はふたつのコンサートを、良き伝道のチャンスとしてくださいました。お祈り、ありがとうございました！今日は、その報告をさせていただきます。（写真：ノイルピン市バプテスト教会）

●ノイルピン市、老人礼拝賛美コンサート（3月18日）

1989年にベルリンの壁が崩れてから17年経ちましたが、旧東ドイツの痕跡は未だしっかり残っています。ここ、ブランデンブルク州にあるノイルピン市も例外ではありません。灰色の壁の家屋や旧東ドイツの典型的なスタイルの大きなアパート、未だ舗装されていないデコボコの小道、花柄のPタイルの階段、アパートの階段の踊り場にとりつけられたトイレ（寒い冬、夜中にお手洗に行きたい時はちょっと大変です）、そして、西側の大都市にはあまり見られない「思いやり」・・・



3月18日、ノイルピン市の中でも最も近代的な老人ホームにて、礼拝賛美コンサートをさせていただきました。この老人ホームでは、各週土曜の午後4時から自由参加の礼拝が行われています。普段の礼拝には15人ぐらいの高齢者の方々しか集まりまらなそうですが、賛美礼拝、ということで、50人ほどの高齢者の方々が集ってくださいました。車椅子の方、寝た

きりの方を見ながら、賛美をしていますが、何か特別な思いが胸に溢れるのを覚えました。

帰りに、牧師とつくづく語り合いました。

「どこの教会でも、若いたましいを救いに導こうと一生懸命だ。それは、若いうちに主を知ることが大きな祝福であり、若いクリスチャンは将来伝道の大きな原動力になるからだ。でも、ほんとうは、明日にはいのちがどうなるか分からない高齢者にこそ、まず最初に福音を語らな

ければならないのではないだろうか。」

●ノイルピン市、バプティスト教会95歳バースデー・コンサート（3月19日）

今回のコンサートは、ノイルピン、バプティスト教会95歳のお誕生日を記念してのものでした。1901年3月19日に、この町にバプティスト教会が誕生したのです。その後、教会は、第一次世界大戦、第二次世界大戦、社会主義体制、そして、東西統合という歴史の中を生きてきました。特に社会主義体制の時代は、迫害の時でした。多くの教会員は大学で学ぶことができず、教師になることを禁ぜられ、クリスチャン家庭の子どもたちは学校でいじめられるのが常でした。けれども、終戦までは不安定な体制の下で生きてきた人たちが、急に共産主義思想を押しつけられ、本心とは別の意見を表明しなければいけなかったのに対し、あるクリスチャンたちは、自分たちの信仰を表明することで、本心を偽る必要がありませんでした。ですから、思想的圧迫を受けていた一般市民より、クリスチャンの方が、社会的制約はあっても、精神的にははるかに自由に生きられたと言います。



コンサート後、何人かの年輩のノン・クリスチャンの方が話しにいらっしゃいました。「心に語りかけられたものがあった」「あなたの歌と話しが心からのものであることを感じ、大きな感動を覚えた」とおっしゃるので、その方々にさらに「福音」をお伝えすることができました。

その方々との話しが終わった頃、二人の年輩のご婦人が教会にやってきました。市の新聞が、コンサート開始時間を2時間遅く報道してしまったためです。その方々に深くお詫びしながら、一緒にお茶とケーキの時を持ちました。そこで、聖書に書かれてあることを、いろいろ説明することが出来ました。二人のご婦人は、「コンサートは聞けなかったけれど、かえってこんなにステキなひとときを持つことが出来た」と喜んで帰ってゆかれました。

●ベルリン訪問

コンサートの翌日、1時間南下してベルリンに行き、2日に渡って、シナゴグ、ユダヤ人博物館、ユダヤ人犠牲者慰霊碑、ユダヤ人地区、ペルガモン博物館、ユグノー博物館を巡りました。



ペルガモン博物館は圧巻！でした。中に入ると、古代ギリシャのペルガモン（現トルコ、ベルガマ）で発掘された『ゼウスの大祭壇』が9,66mで再建されており、『ミレトスの市場門』、古代バビロニアの『イシュタルの門』（写真左）、アッシリア、ローマの遺跡などが、そっくりそのまま展示されているのです。まるで、旧約聖書の

時代に生きているような錯覚に襲われました。そして、それぞれの時代の神々への信仰のすごさに、唖然とさせられました。文明を支配してきたのは、神々、というより、真の神を見えなくするために、また自分を崇拜させるために、たくさんの神々を人々に提供してきたこの世の「支配者」であることを、深く認識させられました。

ユグノー博物館では、迫害を受けたフランスのユグノー派（宗教改革時代、フランスでマルティン・ルターやカルヴァンの信仰に影響を受けてプロテスタントになった信者たち）の多くが、ドイツに、特にベルリンに逃げてきたことを知りました。彼らは、ここでコミュニティを作り、フランスドームを建てました。ここは、今もフランス風のカフェやブティックが建ち並び、とてもしゃれた地区です。ドイツには、フランス語の姓を持った人たちがかなりいるのですが、その多くが、この時代に移住してきたユグノー派の子孫であることを知りました。

これから、本格的に、5月からのNY、メキシコ、日本のコンサートの準備を始めます。どうぞお祈りお支えください。

レントの時、主の受難への思いを深める時としたいと願っています。
皆様にとっても、どうか素晴らしい主との交わりの日々となりますように！

工藤篤子